

「生産性とは、生産性を高める」

A-MEC 株式会社代表 秋山 高広

技術士（経営工学/生産管理）・中小企業診断士（工業）



原点に帰り、生産性を高める意義について述べる。

1. 生産性とは

生産活動は経済活動の基礎であり駆動源である。

生産活動とは、次のように定義できる。

生産対象 + 生産活動(価値の付加)

⇒ 増価された新たなモノやサービス

生産性とは、次のように定義できる。

生産性 = アウトプット(価値の付加)/インプット

2. 生産性の指標

主な生産性の指標には、次のようなものがある

①資本生産性(生産手段あたりの生産性)

- ・資本生産性: 投下資本に対するアウトプット
- ・設備生産性: 投入設備に対するアウトプット
- ・土地生産性: 土地面積あたりのアウトプット

②物的生産性(生産対象あたりの生産性)

- ・材料生産性 : 投入材料に対するアウトプット

③労働生産性(生産主体あたりの生産性)

投入労働量に対するアウトプット=アウトプット/労働量

3. 労働生産性が最重要な指標

生産の主体は「人」であり、人の生産性は労働生産性で定義される。すなわち人の労働量あたりのアウトプット(アウトプットは交換価値の増加分:付加価値)が労働生産性となる。これは1人当たりいくら稼いでいるかの最重要指標となる。

4. 何故、今、生産性の向上か

次のグラフは、国内の産業別労働生産性を比較したものである。



グラフのとおり、その生産性には大きな開きがあることがわかる。「働き方改革」が大きなテーマとなる中、今や生産性向上による同改革が不可欠となっているのである。

5. 生産性を高めるには

生産性を高めるには、次の方法がある。

・インプットの最少化

生産方法を改善する。(人・モノ・設備の最適組合せ) ムダを取る (7つのムダの改善) 生産速度を上げる (機械化、自動化)

・アウトプットの向上

価値の向上、高付加価値化 (高く売れるものづくりやサービス提供)、販売数量の増加 (販売増の仕組みづくり)

6. 機械化や自動化による生産性向上のジレンマ

機械化や自動化は飛躍的に生産性を高めると言えるか? 確かに機械化や自動化は、投入労働力あたりの生産数量は飛躍的に増加する。しかし、自由競争の市場においては、供給量が増加し競争の激化により、製品の価値は下がり、結果として貨幣換算(生産高)のアウトプットは減少し、ときには生産数量の増加を相殺する。

横並びの機械化/自動化は、大半の敗者を生むのである。

7. 価値向上で必要なのは異質化競争

価値向上で最も重要なのは異質化競争である。

同質化競争:

同様な製品やサービスを、最新の購入設備で、より早く、より安く、生産して優位的に供給しようとする競争である。これは、消耗戦であり大半は敗者となる戦いである。

異質化競争:

他と異なる設備や専門技能で、他にない製品やサービスを生産して、優位的に供給しようとする競争である。これは、異質化/差別化競争であり、真の高付加価値化の戦いである。

<発表者プロフィール>

A-MEC 株式会社代表取締役、
秋山経営技術研究所 代表